

勝山市総合教育会議議事録

日時 令和6年2月8日（木）午後4時～5時15分

場所 市役所 第2・3会議室

1. 開会
2. 市長あいさつ

○市長

総合教育会議を開催したところ、こうしてお忙しい中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。日頃より勝山市の教育行政に多大なご尽力いただいていることを、この場を借りてお礼を申し上げます。

さて、1月1日正月明け早々に、能登半島で大きな地震がありました。この勝山でも経験したことのない横揺れで、これまで私どもも、勝山市で災害で注意するのは大雪、それから去年、一昨年の大雨とこういったものが大切な防災対策だと思ってました。しかし、実際に揺れを感じ、お隣の能登半島での大きな地震ということを考えますと、やはり子どもたちをはじめ、市民の皆さま方の安全安心という観点からも、今一度、地震対策についてしっかりと考えないといけない、そういった年明けだったかと思います。

能登の状況とこの奥越前の状況はちょっと似てまして、少子高齢化が進んでいるとはいえ、人口がかなり小さくなってきています。それから、耐震化がなかなか進んでいない状況が多く、瓦屋根が多いなど、いくつか類似するところもあります。色々な防災関係の打ち合わせの中で、そういった点についてどう対応するか、そういったことも考えているところです。

幸い教育施設等については、耐震化が十分進みますので、そういったところについては、今一度見直すところがないか考えていきたいなと思っています。

少子化の中で今年、子どもの生まれている数が4月からこの1月の終わりまで全部合わせまして68人です。勝山市全体での数字になりますので月平均7名を切っています。正直言って、子どもの数が2桁いる学校は3校ぐらいしかないような状況になっており、こういった中で少子化だけではなく、これと比例する形で高齢化が続いています。

今、高齢化率が37%を超えるような状況の中で、こういった少子化がさらに高齢化率のアップに拍車をかけていくのかなと思っています。

そういった中でもしっかりと子どもたちへの教育環境をお届けをしたい。それから子育て環境をしっかりと整えていきたいということが、私ども勝山市全体のそして教育長と話をしている考え方です。

そういう意味では、今中学校の再編に向けまして、大きな山場にも取り掛かっていますので、しっかりと良いものを作っていきたいと考えています。今私どもの限られた勝山市としてのこういった資源を、子どもたちのために未来への投資に振り向けたいというのが基本的な考えでございますので、教育委員の皆様方のご支援をいただきたいと思います。

本日は、会議の中で、教育に関する大綱の取り組み状況の他、新中学校の校名が、アン

ケートの中で3点に絞ってきましたので、今日この場で皆様方のご意見をいただき、まとめたいと考えている次第です。

それから、教育委員会に就学前教育を全て集めたというような形の中で、新しい「かつやまっこすくすくビジョン」幼児教育保育の方針などについても、今素案が出来がありましたのでご説明をさせていただくと同時に、市長部局へ移った社会教育委員の今後の考え方についても、後ほどご説明をさせていただきたいと思います。

いずれにしても、皆様方から忌憚のないご意見をいただき、勝山市全体の教育環境をソフトハード両面でしっかりやっていきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いたします。

3. 協議事項

(1) 教育に関する大綱（令和3年度改訂）の取組状況等について

○事務局

今年度の各取組に対して委員の皆様からご意見などはございませんでしょうか。

○教育委員

連絡システムのHome & Schoolとか、こういうのが十分活用されていて、先生方も仕事しやすくなったんじゃないかなと私は思ってるんですが、その他にもっとIT化を進めたいなと思っています。今現在そういったことでさらに進めている内容がございましたら教えてください。

○学校教育審議監

シーフォース（C4th）というシステムを進めています。アンケートが学校の方に来ましたり、学校の方で考えたりする時には、そのシステムを使いまして集計しやすくなっております。また子どもたちが授業の中でタブレットを使うという場面も多々ありまして、見学に行くと、授業の中でそれを使い、発表するときも使ったりしており、その実態を見せていただいております。先生方も教材を研究するときにも、その活用ということで前の先生からの引き継ぎなどでもそれを使うことによって、新たにゼロから作るということではないので、それが良いと話を聞いておりますので、かなりシステムとしては働き方改革にも一役を担っていると思います。

○事務局

他によろしいでしょうか。

○教育委員

9ページの歴史文化に関するところの一番上のあたりで、地域の伝統文化を次世代へ継承するためという部分について、以前、総合文化祭の日にジオアリーナで勝山高校生のプレゼンを聞きました。その子はエコカーについての研究をしており、自分の探究したことを発表しておりました。その時に、勝山高校の探究のコーディネーターをしてらっしゃる永野さんとお話をしましたところ、生徒の中には左義長について探究したいと考えている

子もいるんだってというふうなことを言ってました。そういうことをやりたい子が、それを課題として研究探究していくことができたなら素晴らしいなと思いました。やっぱり、若い子のアイデアって素晴らしいものがあると思いますので、そういう探究を通していろんな地域の伝統文化がさらに深められて、つなげていけたらいいなと思いました。

先日、竹内議員の議会報告を見てましたら、安岡課長さんがちょうどそのことにつきまして、答弁をされているところが、まさにそういったことが書いてありましたので、拍手を送りたい気持ちになりました。子ども達の探究促進課の新設を契機に、魅力から特色化を進めており、勝山市としても市の活性化の実力を担う価値構成に期待しているということとか、若い世代の意見が自然に反映されていくと、それがまちづくりにもつながっていくっていう風なことを答えておられましたので、本当に子どもたちの探究していることがそのまま市政に生かされてくると、子どもたちのやる気も増しますし、広がっていくかなと思いました。

○未来創造課長

ありがとうございます。左義長まつり自体の担当は未来創造課になっているんですけども、やはり地区の方の檣に上がる人が人手不足であるとか、そういった課題もございまして、地元だけでは担い手が難しいという状況があります。子どもさんたち、小学校から高校の方みんなが連携しながら、伝統文化を守って、そしてどんどん街の中に入って、そこをまちづくりに活かしていくという形で、皆さんで盛り上げていけたらいいなというふうに感じております。

○教育委員

どうしても昔から左義長祭りは、旧町内のお祭りというイメージが私たちの世代にはあるんですけども、こんな風にしていくと、市全体の左義長という風に、どこに住んでいる子どもたちにとっても、左義長が勝山の伝統文化だって思えるようにだんだんできてきているのではないかなと思います。

○事務局

その他はございませんでしょうか。

○教育委員

先日、福井市のAOSSAで、福井ふるさと教育フェスタがありまして、私も参加させてもらいました。その時に県内の小学校中学校の子どもたちの発表がありまして、その子どもたちが自分の地域の魅力やそういうものを掘り起こして自分たちの街を活性化、盛り上げていこうという風なことについて、それぞれ調査したり研究したりしての発表がありました。それを聞いてまして、子ども達ってすごいなと感じました。いろんな発想から自分たちの地区に誇りを持って、それをどう発信していったらいいかというような話がありました。もちろん勝山でもふるさと教育をやっていただけてまして、この大綱の中にもそれをうたってあるんです。そのことが故郷、勝山市の魅力を子どもたちが自分たちだけで勉強して、それが分かって勝山の愛着心に繋がっていくっていうことを考えると、将来、子ども達が市外県外行ったとしても、また勝山に戻ってきたいっていう気持ちに繋がっていくんじゃないかなという風に思いますので、さらにふるさと教育に力を入れていただけるとありがたいと思います。

○教育総務課長

ありがとうございます。私も教育フェスタの方と一緒に見ていましたが、勝山の小学校も出ており、本当に素晴らしい発表だったと思います。

○教育長

関連ですけど、その教育フェスタでふるさと福井CMコンテストというものがあり、入賞した作品が公表されたと思うんですけど、勝山も入賞した学校もありますし、ちょっと残念ながらという学校もあったんですけど、みんな積極的に子どもを中心にCMを作って応募していますので、市長と話をし、子ども達の作品を活用する方法について、市役所庁舎とか教育会館とか各地区のまちづくり会館、地域のセンターで流していただくというようなことを今準備を進めております。

○教育委員

一人一台タブレットを支給していますが、現在課題とか見えてることがありましたら教えてください。

○学校教育審議監

最初は教員もそうですし、子どもたちも初めてということでいろいろな研修を設けさせてもらってやっていきました。今はやはり何年も続いていますので上手になってきて、さらに自分の作品がタブレットの中に残っていきますので、6年生はその中のデータを中学校の方に今後持ち上げてということで考えています。その中に入ったものを使って、ふるさと教育や総合の時間の学習発表会などに利用しています。今タブレットが文房具の一つとして、先生方も研修に来る時にはだいたい筆箱を持ってくると同じような感覚で、皆さん持って来てくださっています。さらに勝山市が購入したタブレットは、wi-fiが使えるところだけではなくて、外でも自由に使えますので校外学習にも持って行ってますし、かなり幅広く使えてるなと思っています。

○教育委員

タブレットを通して学校同士の交流も進んでいるなと思い、拝見しています。良い取り組みだなぁと思っておりました。

○学校教育審議監

バスに乗って交流しに行くのと違って、一緒の場で違う学校と交流ができます。こうした機会を通して、平泉寺小学校さんが成器南小学校さんと音読の学習会があつてみたり、この間は福井市の一乗小学校の方と交流があつてみたりと、いろんな学校がいろいろなところとやっておりますので、どんどん広がってくるなと思います。

○教育委員

一番最初に市長さんから地震についてのお話がありましたけれども、新中学校が建てられますと、第一次避難の場所としても、とっても良い避難所ができると感じました。国道が傍を走っていきますし、そして大きな体育館が3つあること、また広い駐車場があること、それから温泉センター水芭蕉も結構近くにありまして、中学校に給食の施設ができるっていう事でそういった点でも良いですし、特別支援学校も近いっていうこともあって、

福祉避難所的なことなんかも受け入れやすいのではないかなと思いました。地震はいつ起こるかわかりませんが、そういう事態に備えて、新中学校を含めた勝山高校の敷地全体が一時避難所の場所として、十分考えていけるところだなと思いました。

○市長

ありがとうございます。前からそういう話が出ていますように、長山公園全体それからジオアリーナの敷地全体を使いながら、平時の教育環境としても最高のものを提供したいと考えていますし、細かいところも詰めながら、ご指摘いただいた防災面での活用などもしっかりとやっていきたいと思えます。

(2) 新中学校の校名について

○教育総務課長

私の方から新中学校の校名について説明をさせていただきます。

新中学校の令和9年4月の開校に向けまして、新中学校の校歌、校章などを順次決定していかなければいけません。今年はずまず新中学校の校名を決定することとしまして、再編準備委員会にて新中学校の設置に係る校名選定要項というのを決定し、それに基づき作業を行ってまいりました。

7月から9月の夏休み期間に、市民の皆様や児童生徒の皆さん、すべての方を対象に、校名の募集を行いました。その結果885件の応募をいただきまして、10月にその中から11個を選考いたしました。その11個の校名候補につきまして、12月に市内の児童生徒、先生方から投票をいただきました。その結果、資料2の方に載っております3つの校名が選ばれました。

校名は勝山市立勝山中学校、勝山市立桜中学校、勝山市立勝山みらい中学校という3つでございます。本日は要項に基づきまして市総合教育会議におきまして、校名を決定したいと思っております。

○市長

具体的に言えば 学校名を決めてしまうということです。正式には設置管理条例での可決となりますが、皆様のご意見をお聞きをして決めていきたいと思えますので、ぜひ忌憚のないご意見いただきたいと思えます。

○教育委員

今まで、北部、中部、南部3つ中学校がありました。今度からは勝山に一つだけの中学校なので、やっぱり勝山という言葉入らずではだめだと思えます、私はやっぱり勝山中学校がいいかなというふうに思っております。

一部私より年上の人にとっては、昔の勝中の復活なんて喜んでる人もいますけど、そういう意味ではなくて、あくまでも3つが一つになって、まとまっていこうという意味で、勝山という名前がいいんじゃないかなと思っております。

○市長

他にもざっくばらんにお聞かせください。

○教育委員

私自身は平泉寺中学校で、当時の勝山中学校は1学年に10クラスはあったマンモス校でした。我々はいろんなスポーツや大会でも一緒にやったわけですけど、その時のことは考えなくて良いと思います。他に中学校があるのなら別ですけど、一校になってしまうわけですから、私もやっぱり勝山中学校が一番シンプルでベターじゃないかなと思います。

○教育委員

私も勝山中学校に賛成です。やっぱり地名を入れるっていうのは大事だかっていう風に思います。スポーツのいろんなチームがありますけれども、福井ブローウィンズは福井が入ってます。交響楽団なんかでもウィーンフィルとかベルリンフィルとか、やっぱりその地名を入れて作るであるから、あそこにあるチームだなとわかりますので、地名を入れる勝山中学校に賛成です。

でも、最後この3つが残ったっていうことで、勝山中学校をアピールするのにこの2つは使えるんじゃないかなと思います。

春は桜が美しい、秋は紅葉が美しい中学校。そして中高連携で未来に羽ばたく中学校みたいに、せっかく残った2つも何らかの形で使われたらいいなっていう風に思いました。

○教育市長

桜も何百本か今植える準備をしてますので、何か活用できるといいかなと思います。桜とか恐竜とか魅力となるのは、名前とは別に活用を考えてみたいと思います。

○教育委員

子どもたちの気持ちで考えると、勝山中学校が自然だと思います。桜や未来もとても良い言葉なので、校歌などに使えると良いですし、信念として未来を見据えた学校であるということは大切にしたいです。あとは単純にそのローマ字表記した時に勝山みらいがちょっと長いかなと思います。

○市長

おっしゃるように、「勝山中学校」が良いと思います。自分の時には勝中、北中、そして平泉寺中学校の3校体制だったんですよね。いずれ3中学校に再編する前提としての暫定的3校体制だったので、自分が卒業した翌年から今の3中学校体制となり、ちょうど40年ぐらい経ちました。それも実は正式には、勝山南部中学校、勝山中部中学校、勝山北部中学校で、勝山中学校を3箇所に分けてというのが、そもそもの名前だったので、勝山市という名称が残っている以上は、皆さんの意見のとおりだと思います。また一番上に書いてあるんで、推測するに一番票数も多かったようでございますので、皆さんのご意見のとおり「勝山中学校」ということで考えていきたいと思います。

それから、桜ですとか未来ですとか、あるいは恐竜のようなものは校章ですとか校歌ですとか、例えばボタンですとか、そういったところへ反映させていただきたいと思います。

それでは 新中学校の校名については満場一致で「勝山中学校」ということでいきたいと思ひます。それから他の候補に上がった桜や未来については、校章ですとか校歌でぜひ活用を図っていただきたいというご意見がありましたということでもまとめておきたいと思ひます。どうかよろしくお願ひします。

○教育総務課長

ありがとうございました。皆さんのご審議の結果、勝山市立勝山中学校ということにさせていただきますと思ひます。今後ですけれども、市長の方からもありましたが市立中学校の名称等を定めています勝山市立学校の設置及び管理に関する条例の改正案を市議会に上程しまして、議会の議決をもって最終決定となります。慎重のある審議をいただきましてありがとうございました。

(3) 勝山市幼児教育・保育の方針「かつやまっこすくすくビジョン」(案) について

○こども課長

それではこども課の方からご説明させていただきます。

この「かつやまっこすくすくビジョン」は、勝山市と私立保育園、認定こども園、幼稚園保護者等関係者が、質の高い幼児教育保育を実現していく上で大切にしたいことを共有するというを目的に作成させていただいております。勝山市内の園長会等で5回にわたり協議いたしまして、それから仁愛女子短期大学の増田先生や教育総務課の指導主事の先生方のアドバイスもいただきながらこの素案に至っております。

2ページをご覧ください。基本理念として、「育もう！心豊かにたくましく生きる子」として「からだげんき」「つながるなかま」「やさしいこころ」「まなぶちから」ということで、「かつやま」という基本理念を打ち出しております。この「かつやま」に込められた意味としましては下に書いてあるようなものなんですけれども、国が示しております、幼児期が終わるまでに育てほしい姿も意識しながら、勝山でこういった子どもに育てたいというものを先生方と一緒に考えさせていただきました。

3ページをご覧ください。共に育ち合う関係ということで子どもを真ん中にし、保育者、保護者、そして勝山市が連携しながら、子どもたちの健やかな成長を支援できるようにしたいと考えております。こちらの図はそういった関係を示したものとなっております。

4ページの地域とのつながりということで、勝山市の自然豊かなところを子どもたちに存分に遊んでほしいという気持ちや、伝統や文化等を継承していきたいということで、地域とのつながりを持ちながら、幼児教育保育を提供していきたいといったことがこちらの図に込められております。

5、6ページにつきましては、勝山市の子ども政策についてということで、妊娠期から18歳までの切れ目ない支援をこのように行っていくということと、幼児教育保育につきまして、学校との連携や巡回相談、それから幼児教育を推進していく上での研修会、そして国際交流活動などにも力を入れていきたいということで作成しております。

今こちらの方は案の段階でございますので、委員の皆様にご意見をいただければと思ひ

ますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

○市長

せっかくですので、ぜひご意見をいただけたらと思います。

○教育委員

今までも子どもたちを十分に見ていただいて感謝しています。今、毎年人数が少なくなっているのかしらと心配はあります。ただ、勝山全体として子どもたちを見ていただけるということは、すごく素晴らしいことです。

○教育委員

深谷先生のところで、病児病後児保育をやってますよね。今はあそこ一件しかないというのが心配です。噂では、河北先生がやめられたとも聞きました。能登半島地震の後のケアでオレンジクリニックさんが勝山で福祉避難所をやるとお聞きしました。例えばオレンジクリニックさんみたいなどころに、病児保育を頼んだりとかそういったことはできないのですか。

○市長

おっしゃるとおり、病児病後児保育の施設が深谷さん一箇所っていうのは、何かあった時に代替ができないので、そこは私どもも前々からの悩みになっています。一つは、園内での病児保育をするというのは今申請が出てきていることがあります。それからですね、病児保育をもう一箇所増やすというのは大きな課題になってますので、しっかりとご意見に対応していきたいと思います。ありがとうございます。

○教育委員

親が休みやすいような空気感を醸成していただきたいなと思います。

○市長

社会全体で子育てをするんだという考え方の中で、私どもも含めて子育てのために休めるような、男性も女性ももう少し楽になるように、そういった社会の醸成っていうのは必要なので、しっかりやっていきたいと思います。事業所向けにも、商工会議所などにもそういったことを伝えて行きたいと思います。

それから病児保育もですね、現在の8時半から5時半までの利用について、もう少し時間が延びないかということ、また深谷先生にもお願ひをして使いやすいやり方にしていきたいです。

○商工文化課長

子育てであつたり女性の活躍できる場については、市からもお願ひをしたいと思いますし、そういう計画を事業者さんに新たに作っていただくような働きかけをしてみたいと考えています。よろしくお願ひします。

○教育委員

図入りでとっても分かりやすくていいなと思いました。

○市長

イメージ化して各園に置くような、そんなことも考えるといいかなと思います。

○こども課長

今後は、リーフレットとポスターを作成しまして、作っただけで終わらずに、毎年これに向かって各園がどう取り組んでいくかみたいなことも含めて継続して取り組んでいきたいと思っております。

○市長

自分がこれを聞くのはちょっと申し訳ないんだけど、これって何年間とかっていう目標年次はありますか。

○こども課長

今は特に設けていません。

○市長

わかりました。そういうことであれば、やはり毎年あまりガチガチにしないで、状況に合わせて少しずつこういった席で追加や修正などについて柔軟に直していけるといいと思います。目標年次はなくても構わないと思います。

○教育委員

5ページに書いてあります「切れ目のない支援」というのが勝山の売りだ、ということでこの前からお聞きしてるんですが、この図を見ただけでは他の市町村と比べてここがいいというのがちょっと分かりづらいんです。せつくなので、もうちょっとわかりやすいといいかなという気がするんです。他にはない特徴を持っているのもっとここがいいですよ、というところをアピールできるような図にしていただけるといいのかなと思います。

○こども課長

ご意見ありがとうございます また検討させていただきます。

○市長

今もありましたけど、この切れ目のない支援については、以前からいろんなところで言ってるんですけど、0歳から18歳までしっかりとした経済的支援、それをもうちょっと見える化をしたいと考えています。無理のかかるところをしっかりとフォローしていきたいと思っています。

子どもが減る中で、やはり地域全体で子どもを育てていくという観点の中でそういったことも見える化をしたいなと思っています。さらには18歳以上でも、いわゆる奨学金の給付金なども引き続き準備を進めています。

(4) 社会教育委員について

○未来創造課長

現在、勝山市社会教育委員設置条例により各地区から選出されて、社会教育委員は9名の方がいらっしゃいます。北谷は人数的に選出できないということで9名となっております。現在の委員の任期は令和6年5月31日までとなっております、令和4年と5年度、任期2年間活動していただいております。

今任期が切り替わるタイミングに合わせまして、市全体で社会教育をやっていくという方針のもとに機構改革が行われ、未来創造課の方で社会教育を担っている状況でございます。そういった状況から、地区の選出ではなくこういった勝山市全体を活動されている市民の団体の方々の中から、候補をお願いいたしまして、選出をお願いしたいと考えているところでございます。

活動内容につきましては、図書館や市民総合大学、その他の構成団体が実施します社会教育に関する活動、講座の内容について、委員の中で意見をいただいて、提案をしていただくことによりまして、こういった活動内容を充実を図っていきたいと考えております。

また、こういった中で所属団体の情報交換を行い、連携を行うことで一層お互いの活動を高めるという意味で選出方法を変えていきたいと考えております。構成団体候補の表がございますが、これはまだあくまで一例でございまして、これからもう少し他の団体さんから意見をいただけたところを考えていきたいと思っております。

○教育委員

まず質問があるんですけども、社会教育委員の所管は未来創造課ということなんです。しかし市の設置条例を見ますと、勝山市教育委員会が委嘱するってなっているんですけども、そこらあたりが教育委員会はどういうふうに社会教育委員の方と関わっていくのでしょうか。こういうことを検討することも、未来創造課から意見が出されているのですが、教育委員会が委嘱するのにちょっと合わないんじゃないかなっていうふうに思いました。

○市長

昨年、機構改革の中で市長部局から子ども関連を全部教育委員会に移すと同時に、教育委員会から文化行政とか文化とか、あるいは体育、社会教育を市長部局に移しました。ただその中で、社会教育だけは実は委任ということで、教育長から私にその業務を委任していただいたという形になっています。

そこで現行、委嘱状は教育委員会の名前で委嘱をして、ただ現実問題として教育委員会には社会教育をやるセクションというのは一切ありません。委嘱は教育長にさせていただいて、その上で実際の事務は私の方が未来創造課に命じて進めることになります。

ただ、前回ちょっとしくじってしまいまして、私の方で、教育長の名前入れて委嘱状を渡すような形になってしまったので、その委任の形がうまく説明しきれなかった。今回の委嘱の時には、教育長から新たな社会教育委員さんに委嘱をしていただいて、その上で、教育長の方から、こういった業務については基本的に市長部局に移入してまずってことを言っていた上で、私や未来創造課の方からいろんな事務をする、そういった手順をしっかり踏みたいと思っております。そこが少し委嘱の時に社会教育委員の方も分かりにくかったところがあったかと思っております。そこは私どもの失敗だったということを反省して、今回しっかりと踏まえてやりたいと思っております。

○教育委員

教育委員会が委嘱するから今日のような議題があると認識すればいいんですか。

○未来創造課長

その通りでございます。社会教育法の中で教育委員会が委嘱するというふうになっておりますので、委嘱は教育委員会が、事務は未来創造課が行っています。

○教育委員

機構改革で、社会教育委員が教育委員会から市長部局に移入されたことや、委員の選出区分をこのように変更したいということに関して、社会教育委員さんはどのように考えておられるのか。そういったところについては協議をしていますか。

○未来創造課長

先日、1月の後半に現社会教育委員にお集まりいただいて一応この案をお見せしました。その段階では、地区ではなく 団体から選出するという件に関しましては、ほぼ全員の方の賛成の意見がございました。

○市長

1月の下旬で初めて示したわけではなく、前にもいろんなやり取りの中で示していました。社会教育委員は学校区ごとに選んでいましたが、社会教育そのものが以前から公民館でやる中で、実は公民館と社会教育委員さんの間のやり取りっていうのはほとんどありませんでした。

自分も公民館にいましたし、公民館で社会教育員さんの方と協議をするというシーンはなかなかありません。実は地域と社会教育員さんのリンクっていうのはかなり以前から切れてしまっていて、公民館で社会教育委員の方を交えて議論っていうのはほとんどありません。

地区ごとに選んではいたんですが、地域の方も公民館の職員も自分のところから選出しているというそういった認識すらないという、そういったことが長く続いてしまったということもまた事実です。

そういった中で、これは機構改革の一つの考え方のベースにもなったんですが、なかなか地域での社会教育が難しくなっています。社会教育をもっと進めたいんだけど、地域ごとに、例えば北谷でやってくれとか遅羽でやってくれとか言っても、苦しくなっていて、ほとんど人を集めたりできなくなる中で、役所一本でやって、市全体のあるいはエリアごとにこういった、いろんな講演会などができたら良い、そういうのが思いです。それが必ずしも今スムーズにスタートしたかどうかは別ですが、それがベースにあります。

だからそういった考え方から言うと、選出も地区からというよりも、この構成がいいかどうかは別にして、全体の中から考えながら、新しい時代に合わせた社会教育委員の方々とのこういった話をした方がいいのかなっていう考えはあります。

また、現社会教育委員の方々にも今の話を1月に説明をして、全員のご理解をいただいているということではございます。もちろん、市が必要と認める学識経験者というふうな位置づけもありますので、その都度もう少し考えていくようなことは十分やっていきたい

などと思います。ご推薦いただければ、そういった人も考える余地は十分あります。

○教育委員

現在の社会教育委員さんの年齢構成とか男女比とかはどんな感じですか。

○市長

委嘱にあたって、やはり男女比はしっかりと考えていただいた方がいいかなと思います。

○教育委員

そういったことを考えて、若い人もうちよつと入れてあげたりすると良いと思います。青年の若い人のサークルの代表の方とか参画いただきたいと思います。

○未来創造課長

母体となる団体からお願いする形になるかなと思いますので、お声のかけ方を少し年齢と男女比と考えながら声かけさせていただきたいと思います。

○市長

国際交流なんかも入れるといいかもしれません。

○教育委員

そもそも社会教育委員っていうのは、社会教育行政に地域の意見等を反映させるために設けられた制度っていうふうに書いてあったんですけども、そのために各地区から選ばれてたのかなと思いました。しかし、そういう働きはあまりされてなかったっていうことだと思うんですね。そのことと、今ここに団体候補をあげられていますけれども、これらが学校教育関係者、社会教育関係者、それから家庭教育の向上に資する活動を行うっていうことで、学識経験者っていうそういうものを網羅していればいいかなと思います。

もしもこの代表の方々が、勝山地区に偏ってしまったとか、そういったことないように選ばれると思うんですが、そうすると全然地域の声が届かないっていうか、本来の目的が達成できるのかなっていう心配をちょっとしました。

○市長

やっぱり校長会みたいな人には入ってもらった方がいいかなという気がします。

入っていただく地域の比率については、各地区というのは現状難しくなっているので、南部、中部、北部のそういったバランスっていうのは考慮してやった方が良いでしょう。

○未来創造課長

そういった部分も考えてお声がけさせていただきたいと思います。

○教育委員

文化財の文化財保存活用とかそれを利用する活用することとかそういうグループの集まりみたいなものはないんですか。例えば旧木下家住宅とか色々文化財を活用することについて

て話し合うような団体はありますか。そういった人も入るといいと思います。

○商工文化課長

文化財保護委員会や、はたや記念館の保存活用委員会みたいな懇談会があります。

○市長

男女共同参画のネットワークだとか国際交流の団体だとか、例えばゆめおーれのNPOなど、毎回変えればいから、幅をもうちょっと広げてやってみるといいかもしれません。

○教育委員

若い人から見ると何の活動か分からない。地域の役がたくさんあってとにかく上げてはいけないものという存在になっており、委任される方も何が何だかわからないままというケースは結構あると思います。制度のためにするのではなくて、基本に立ち返って、実現したいことのために順番を間違わないようにしていきたいというふうに思います。

○未来創造課長

おっしゃる通りだと思います。これからの活動も努力していきながら、社会教育委員が活躍することによって社会教育が良くなるとそういった構図にしていきたいと思います。ありがとうございます。

(5) その他

○教育委員

こども会館を楽しみにしてるんですけど、少しでも早くできるといいと思います。

○市長

先ほども申し上げましたように、できるだけ子どもですとか、未来のことですとか学校のことですとかに限られた資産を全振りしたいというふうに考えてます。

実は、令和6年7年が中学校の建設のピークが来る関係上、こども会館の整備は令和8年度ということで実は調整をしています。単年度に負担が大きくなってしまうので事業間も少し調整をさせていただいてますが、8年度には必ずということで計画を立てています。

逆に言うと少し余裕があるので、いろんな意見を聞いたりしながらいいものにやっていくための時間的ゆとりがありますので、そういった席もこういったところでも設けたいと思いますし、子どもたち、あるいは保護者の方にも聞いていきたいなと思っています。

○教育委員

令和8年度になっても県の交付金は継続しているんですか。

○市長

令和8年度までなんです。それが限度です。

○教育委員

高齢者を締め出さないようにしてほしいです。そして、中庭をぜひ残していただきたいと思います。

○市長

この話を、喜んでさわやか大学で説明に行ったら、老人の人にこっぴどく怒られたことがあって、しっかりと配慮をさせていただく必要があるということは肝に命じています。

お年寄りも使えるような施設、バリアフリーで使えるような施設でお年寄りが子どもを見るようなシーンというのも想定していきたいなと思っています。

庭は嫌いじゃありません。ただ本当の自分の気持ちを言うと、島田先生の話聞くまでは、あそこは芝広場にすつもりでした。鹿谷でそれを言われたので、今もう一度考えて庭を生かしながら出入りができるような形も含めて、それも一つの方法かなって今は思っています。

あの話が出なかったら多分今頃芝生になっていると思います。外に出入りできるようにして、少し子どもたちも眺められるようにして、危なくないように、子どもが歩けるようなそういったものは必要かなと思います。

○教育委員

勝山に屋内遊戯場など、こどもの遊べる場所がないので、できることを楽しみにしています。

○市長

子どもの出生の数が激減しているというのは何が起こるかという、市内に40カ所弱がある都市公園なんですけど、子どもの数があまりに少ないものでどこの公園も綺麗にしても活用する人がもう戻らない。農村公園にいたっては本当に草がいっぱいという状況だと思います。

もちろんそういった地域の公園も、しっかりとみんなの意見を聞きながら大事にしながらですけど、やはり子ども同士が触れ合うような場所がないと良くないので、できれば多くの子がそこで触れ合えるような、そのようなものにしていくといいかなと思います。またよろしくをお願いします。

またこども課の方でも、周辺の人意見とかこども園の意見とかまた聞いていきたいと思っています。

○教育委員

恐竜溪谷ふくい勝山ジオパークについて、教育大綱にちょっとうたってはあるんですけど、去年再認定の調査があったようですけど期間は何年ですか。

○市長

ジオパークは本来4年なんですよね。ただ今回ですね、いわゆる以前からイエローカー

ドってという言い方なんですけど、本来4年なんだけど改善すべき点が多いので、2年だけ仮に認定しておきます、というそういう状況になってます。去年の秋が再認定審査だったので、来年の秋に再度、再認定審査があります。それについて今どういう風にしてそこをクリアするかとかって話を始めています。

ただ同時に、エコミュージアムを15年、それからその後ジオパークを15年やりました。先ほどAOSSAの発表の話もありましたけど、あれはまさに30年前にエコミュージアムで目指した、子どもたちが地域の魅力を再発見してそれを広げていこうというものが今のような形につながっているという風に思っています。

ジオパークもですね、それまで恐竜は単品で考えてたのが、実は単品ではなく地質とか気候とか植生とか文化とか、いろんなものが大地の上に立っているんだっていう考え方を整理できたのは本当に良かったと思っています。

ただ今は、恐竜博物館が大規模リニューアルをして、恐竜学部ができて新しい中学校ができて、新しい考え方をしていくところで、認定にこだわるべきかという議論は今出てます。

しっかりとそういった考え方を踏まえながら、自分も長い間担当したので、畑中さんも認定のために、もう本当に課内で人間関係悪くなるほどみんなで議論しながら、そういったことを繰り返してきました。関係機関とも神経擦り切れさせてきたけど、それが本当にいいのかなっていう思いがあります。社会教育委員もそうですけど、認定を取るのが目的化してしまって、本来のこういった地域へ活動するというのが薄くなってしまってたってことも、今反省しています。

そういった中で4月にいま一度、推進協議会をしながら、本当にそんなことに拘らなきゃならないのかどうか、ということも含めて議論してますので、もう少し方向性を定めるのにお時間をいただきたい。

○教育委員

全く私も同じような意見を持ってまして、ジオパークのメリットも確かにあるんですけども、この認定を受けるために職員がいろんな書類づくりをしたり、すごい人の労力をかけていて時間もかけていてという状況の中で、果たしてジオパークをこの先ずっと更新していくのが、勝山市にとってそれがベターなのかっていうと、そこをもう一度立ち止まって考えていただくといいのかなとは思っています。

○市長

十分ご意見を参考にして進めさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

4. 閉会

閉会あいさつ

本日はめでたく、勝山市立勝山中学校という校名がここで決まりました。そして今日の市の広報には制服と体操服の写真の候補の写真が載っておりました。市からのLINEを見てきましたらそれが載っておりましたので、まっしぐらに令和9年の開校に向けて進ん

でいけたらいいなと思います。今、教育長をはじめ、皆さん方が各小学校区ごとに説明会を開催してくださっておりますので、それがより多くの市民の理解を得ることにつながっていったらいいなというふうに思います。

それから、この中にもありますように、歴史文化、そしてそういうものをもとにした観光資源が勝山には本当にたくさんあって素晴らしいところだなというふうにいつも感じています。また、そういうことを子どもたちが探究して、それが勝山のまちづくりに大いにつながっていったら素晴らしいなと思います。今日はどうもありがとうございました。